

浜松市 教頭会 会報

第47号

発行 令和4年2月14日
編集 浜松市教頭会 会報委員会

教頭会顧問校長随想

迷うときほど、人が進歩するときである

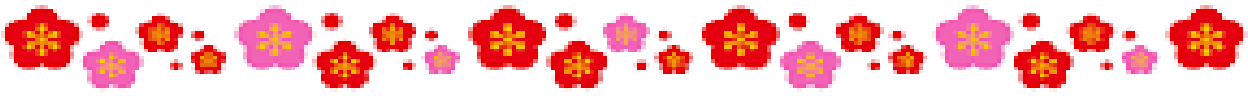
浜松市立北部中学校 佐藤 恵介

1年が過ぎるのが早いと感じる今日この頃ですが、教頭先生はどう感じているのでしょうか。この1年も新型コロナウイルス感染症対策に追われて息つく暇もなかったかもしれません。昔から「若い時の苦労は買ってでもせよ」と言いますが、若い頃の苦労は自分を鍛え、必ず成長に繋がる。苦労を経験せず楽に立ち回れば、将来自分のためにはならないという意味です。教頭はもう若くはないよと思うかもしれませんが、人生100年といわれる時代です。まだ半分ぐらいだと考えれば、まだまだ人生これからです。

自分の教員人生を振り返ってみても、いろいろなことがありました。しかし、その時は苦労してもしっかり取り組んだことは後からプラスとなって返ってきました。生徒指導に関しても同じです。思いもよらないところで人は繋がっているものです。その時は嫌だなあと思ってしぶしぶ取り組んでいたことも多かったのですが……。逆に手を抜いた時は後であの時しっかりやっておけばよかったと後悔することが多かったです。「後悔先に立たず」とはよく言ったものです。

12月に古都研修で京都・奈良に行ってきました。12月半ばにもかかわらず、所々で赤色や黄色の葉っぱが山肌を覆っていて、日の光でとても美しく映えており、京都・奈良の景色は格別に素晴らしいと感じました。寺社巡りの中で薬師寺では和尚様のユーモアにあふれ話術に長けた法話に聴き入っていました。話の大筋は、中学生から社会人になるまでにどれだけ知識をつけて、経験を積むかで大きな差が出てくるという内容でした。その研修の1週間後には「夢をかなえる」という題で、パラリンピックメダリストの鈴木孝幸さんの講演を聴きました。「過去は変えられない。変えられないことをくよくよしても仕方がない。これから何をしたらよいのか、変えられることをどうしたらよいのか自分で考えて行動することが大切」と述べており、この2つのは私の心に深く刻まれ、これからの人生をどう過ごしていったらよいのかヒントを与えてくれました。

教頭先生の仕事は本当に大変です。あれもこれもやらなければならない万事屋です。嫌だなあと思うと気が重くなります。でも、考え方を変えると、教頭の立場だからいろいろなことができ、いろいろな人と接することができる。職員室では職員の担任となり、地域の人からは「教頭先生、教頭先生」と慕われ頼りにされる。また、校長が一番信頼を寄せるのは教頭先生です。言霊といいますが、プラスの言葉を発していれば、自然とそのような気持ちになり、行動も前向きになっていきます。やる気になる声掛けをしていきましょう。職員間の人間関係も生徒に大きな影響を及ぼします。いろいろ迷うことも多いかもしれませんが、でも、そんなときほど自分を成長（進歩）させてくれる時だと前向きにとらえましょう。教頭先生が明るい学校も明るくなっていきます。「きっといいことがあるさ！」と自分に言い聞かせて。



各委員会より



I 研究推進委員会 委員長 森下 望（亀玉中）

今年度は、第3次浜松市教育総合計画「はままつ人づくり未来プラン」の後期の2年目です。市の教育理念「未来創造への人づくり」「市民協働による人づくり」のもと、キャリア教育に重点を置いた教育活動の推進や質の高い学びの実現に向けた授業改善、さらには地域社会との連携や働き方改革の実現を目指した業務改善の推進に取り組んでこられたことと思います。

研究推進委員会では、研究テーマを「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくりを目指して」と提案させていただき、新学習指導要領の理念のもと、地域・家庭との連携を図り、豊かな学校づくりを推進するための教頭の役割について研究をお願いしてまいりました。

各部会においては、上記の研究主題のもと、【教育課程・子供の発達】【環境整備・組織運営】【教職員の専門性・教頭職務】の3つの視点から、それぞれの実態に基づき研究テーマを決定し、具体的な実践を通して教育の質を高めるための工夫に取り組んでくださいました。【教育課程・子供の発達】では、新学習指導要領で掲げられている「社会に開かれた教育課程」の実践や「はままつ人づくり未来プラン」の根幹に位置付けられている「キャリア教育」の視点で自校の教育活動を見直す実践などにおける教頭の役割について研究を進めていただきました。【環境整備・組織運営】では、「はままつ型コミュニティ・スクール」の推進における教頭の役割等について、研究を進めていただきました。【教職員の専門性・教頭職務】では、「教職員の資質向上」「働き方改革」など今日的な学校の諸課題解決のための教頭の役割についての研究を進めていただきました。ありがとうございました。

また、今年度から研修内容を冊子にまとめず、ミライムでの送信とさせていただきました。この点につきましても御協力ありがとうございました。

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため教育課程や学校行事の見直し、新しい生活様式に対応するための整備等で影響を受けましたが、実践研究を通して、教頭職の職責の大きさや校務整理の重要性を再認識しました。今後も、実践研究の場が、教頭同士のつながりを深め、互いに助け合い、高め合う場になっていければと思っております。御協力、本当にありがとうございました。



II 学校改善委員会 委員長 小杉 英司（西気賀小学校）



本委員会は、22名で構成され、研修に励んでいます。基本の方針は三つあります。一つ目は、「教育現場の条件整備と学校改善における教頭の果たす役割の提案」、二つ目は、「第3次浜松市教育総合計画の教育理念や学校を取り巻く課題に対し、具体的な改善策を探っていく」、三つ目は、「学校教育を活発化させるための各機関との連携」です。これらのことを考えて講師を招き、主に2回の研修会を開催しました。その様子を紹介します。

一回目は、第3次浜松市教育総合計画の重点ともなる「キャリア教育」について研修をしました。教育総務課の石原麻美指導主事を講師としてお迎えし「キャリア教育を核とした人づくりの推進」という内容で講話をいただきました。あらかじめ各委員には、どのような内容の話を知りたいかを調査して指導主事に伝え、教頭として必要な知識を身に付けることができるようにしました。

内容は、主に校長会と教育委員会で作成した「キャリア教育ガイドブック」に沿って説明がありました。まずは、「なぜ、キャリア教育が必要なのか。」です。「浜松市の目指す子供の姿にある、夢と希望を持ち続け、自分らしい人生を送るためにキャリア教育が必要で、それによって自分や浜松の未来を創りだせる子供を育てていく。」とのことでした。そして、キャリア教育実践のポイントや教科学習、さらには教科外活動における実践について、実際の学校の様子を示しながら具体的に説明をしてくださいました。「各学校の実態に即したキャリア教育を進め、子供たちのよりよい未来のために尽力をお願いしたい。そして、教頭としては、キャリア教育推進教員のサポートをお願いしたい。」とのことでした。

二回目は、ICT教育の推進です。ギガスクール構想によって学校にICT教育の推進が求められています。どの学校にも、ほぼ一人一台のクロームブックが配置され、学習への利用やライブ配信、動画配信などを手探りの中で行っています。そこで今回は、それらに対応するために、教育施設課のICT教育推進グループの協力のもとにクロームブックのアプリの使用方法や動画、ライブ配信の注意事項などについて研修をすることになりました。当日は、一人一台クロームブックを使用して、オクリンク、ムーブノート、Google Workspaceの三つの研修を行いました。

初めて使用するアプリもあり、とても参考になるとともに、これからの授業への活用にもつながる内容でした。後半の講義では、小中学校での使用頻度の差について話題となりました。今後、どのように学校でICT教育を進めて行きたいかについて意見交換をしました。今回の研修は、教頭として学校でのICT教育を進めて行くためのよい研修となりました。

(3) キャリア教育を核とした人づくりの推進

本市のキャリア教育の押さえ

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、**自分らしい生き方を実現していく教育**



(3) キャリア教育を核とした人づくりの推進

キャリア教育
職業教育 ~~×~~ 本職活動のみ

人づくり

将来、社会で自立して生きていく
ために必要な力を育てていく教育

学校・家庭・地域・行政が連携・協働
目標やビジョンを共有



オクリンク

○操作が簡単であるため低学年も可能
○先生が主となった授業



子供

- ・カードを作成し、簡単なプレゼンができる
- ・カードを先生の「提出BOX」に提出する
- ・カードをみんなに送り合う
- ・画像をトリミングできる

デメリット

- ・他クラスと合同授業ができない
- ・背景画像を挿入できない

先生

- ・先生がカードを分類作業を行う
- ・先生がグルーピング作業を行う
- ・子供の作業の様子をモニターする
- ・任意の子供の画面を選択して比較



LIVEモニタリング

新任教頭随想



「和顔愛語」が持つパワー

浜松市立三方原小学校 松下 欣美



4月から三方原小学校の教頭を拝命しました。3月までは行政での仕事をしており、4年ぶりの学校復帰ということで、戸惑うことばかりでした。

日々、子供や保護者対応に追われ、業務が全く分からないまま、とにかく一生懸命に毎日をごすといた日々でした。先を見通しながら校長の学校経営を助ける仕事が満足にできない状況でも、温かく見守り、支えてくれる多くの職員に感謝する毎日です。

学校では様々なことに対して、判断し、行動に移さなければなりません。そんなとき、「できない」ではなく、「どうしたらできるか」を考え、自由な発想を持ち、多くの情報を集め、最善の方法を全職員で考えられるような体制をつくることが重要だと痛感しています。そのためにも、職員間の温かい人間関係を大事にしながらチーム力を高め、職員のモチベーションを上げていくことが大切です。この積み上げが、校長の目指す学校経営を支えることにもなると思っています。

本校では、学校教育目標具現に向けて「子供の学びを未来につなぐ」をキーワードに、全職員が共通理解してキャリア教育を推進しています。大変意欲的に実践を進めている職員や子供の学びの姿を見ると、私が元気をもらいます。

職員から、授業で、子供と学校の自慢について話し合ったところ、「三方原小学校の自慢は、4つのキャリア教育の力があって、みんなで未来につなぐ学びをしていることだよ。」と子供が発言したという、うれしい報告がありました。報告に来た職員の笑顔は輝いていました。職員の研究や実践を後押しすることで、「学校が楽しい」、「学びが未来につながる」と子供が実感できる学校づくりができると感じた瞬間でした。

このように、子供も職員も笑顔が輝く学校を目指すために、私が大事にしているのは、「和顔愛語」です。私が常に笑顔で明るく、どんなことも相談できるような、職員や子供、保護者、地域の方々に寄り添える存在となること。これは私が尊敬する方から教えていただいた大事なモットーです。

教頭としてはまだまだ未熟な私で、弱みを自覚しています。しかし、明るい笑顔と、自分のこれまでの経験は強みとなるのかもしれませんが。今後も、たくさんの方たちの力をお借りしながら、たとえ問題が起こっても、それを学びや信頼を深めるチャンスと捉え、子供のために前向きに対応できる組織にしていけるよう、自分なりに努力し続けたいと思います。笑顔と温かい言葉が持つパワーを信じて……。

それが、私の「学びを未来につなぐ」ことだと思っています。



地域とつながり 過去と未来をつなぐ

浜松市立新原小学校 池野 由香里



4月より新原小学校の教頭を拝命しました。浜北区の学校へ勤めるのは、初任以来です。「教職人生の出発点に戻り、新たな立場で一から頑張れ!!」と、どこからか告げられている気がし、身の引き締まる思いで赴任しました。その日から、あっという間に10か月余りが経ちました。子供たちのこと、職員のこと、学校のこと、地域のこと…。新しい発見と共に、日々、愛着・愛情が増しています。

他校には見られない、新原小学校の魅力をお伝えします。

一つ目は、学校の敷地と共にある「新原諏訪神社」です。運動場と西運動場の間に神社があります。正しくは、運動場や校舎のほとんどがお宮の土地で、小学校に貸して下さっているそうです。昼休みには、運動場で遊ぶ子、境内で遊ぶ子、さまざまです。地域の参拝の方も訪れます。この光景は、「子は地域の宝」と、子供たちが地域の中で大切にされ、地域で育てられている象徴だと感じています。

二つめは、「応援歌」です。本校の応援歌は、令和3年5月に亡くなられた小林亜星さんが作曲し、当時の鈴木忠彦校長が作詞をした曲です。いつの頃からか、この応援歌を歌う機会は少なくなり、現在では一番長く勤めている職員でも聞いたことはないという状況でした。しかし、今回、小林亜星さんが亡くなられたという訃報を聞き、地域の方からも職員の中からも応援歌復活に対する声が挙がりました。それを受け、特別

活動主任、音楽主任が中心となり、秋に行われた運動会に合わせ「応援歌」が蘇りました。『未来を目指す私たち 行く手に高く虹が立つ』等、新原小児童への思いや願いが溢れんばかりに込められています。この思いや願いを大切にしていきたいと思います。



教頭の職務を語る上で、外せないキーワードは「つなぐ」です。校長先生の方針や思いを職員につなぐ。職員同士をつなぐ。学校と家庭・地域、医療や外部機関をつなぐ。要のような存在が教頭です。そして、これらの張り巡らされたつながりで温かく包み込み、子供たちを育てているのです。今、この時、この場で取り組んでいることが、昔から変わらず受け継がれている子供たちへの願いや思いを未来へつなげていくことにもなるのだと感じています。そう思うと、教頭職は、大変だけれども、何とやりがいのある役割でしょう。まだまだ力不足ですが、この役割が全うできるように、日々、努めていきたいと思っています。



朝の校内巡視から

浜松市立南の星小学校 長坂 明典



毎朝、出勤すると安全な学校がそこにある。そんな当たり前のことをかみしめるのが毎朝の日課になっています。校舎の開錠をしながら、異常がないか確認し、そのあと、運動場の外周を見回り、同じく異常がないか確認します。遊具が安全かどうか目視し乗って確かめたり、時期によっては桜の木に毛虫がいないか確認したり、スズメバチの巣がないか探したりもしないといけません。安全は当たり前のことではない。今なら、この「当たり前のことではない」の意味が分かる気がします。

さて、青い空にエメラルドグリーン屋根が眩しい南の星小学校の朝の風景の一つに校長による正門での挨拶があります。本校の校長は、ほとんど毎日正門に立ってあいさつをします。「おはようございます。」「B o m d i a (ボンジーア)」南の星小学校は外国人児童が全体の3割程度を占めていることが特長の一つ。学校には外国人児童生徒就学支援員(ポルトガル語の通訳もします)や、外国人児童生徒学習支援員、日本語NPO、浜松市教委による「はまっこ」など多くの外国人児童へ支援の手が入ります(それでもとても手が足りているというわけではありませんが)。

そんな朝の正門。本当に多くの子が挨拶をしてくれます。中には恥ずかしそうにうつむいて通り過ぎる子もいますが、8割、いや9割の子が挨拶をくれます。本当にすごいことだと思います。これも南の星小学校の特徴となっています。これまで指導を続けてきた職員の努力の賜物です。もしかしたら、こんなに明るく挨拶できるのは、外国につながる子供たちがいるからなのかもしれません。オープンで物怖じしない子供たちの姿は南の星の宝物です。

そんな挨拶をくれる子供たちをよく観察していると、3割程度の子は挨拶の時、こちらに近付き、頭を少し下げながら挨拶をしていきます。笑顔で。頭を下げて挨拶する時、立ち止まる子さえいます。これには本当に驚きました。大人でもなかなかできません。自分は、こんな挨拶ができていたのだろうかといふに反省してしまいます。こんな子供たちの姿も南の星の宝物です。

本校校長が大切にしている校門での挨拶。「にわか」その背中に倣ってみただけで、これだけのことを感じ気付くことができました。やはり先輩は偉大です。それを思い知ると同時に、自分の背中には後輩の職員が学び取るほどの「教育に大切な何か」はあるのだろうかといつも考えさせられます。今後もその「何か」を常に自分に問い掛けながら朝の校内巡視に向かいたいと思います。